

公の施設の指定管理者における業務状況評価

令和2年10月13日

施設名	坂本龍馬記念館	所管課	文化生活スポーツ部文化振興課
-----	---------	-----	----------------

1 施設の概要

指定管理者名	(公財)高知県文化財団	指定期間	平成31年4月1日～令和6年3月31日
施設所在地	高知市浦戸城山830番地		
事業内容	坂本龍馬を顕彰する施設として、坂本龍馬に関する資料の収集、保管、及び展示を行う。		
施設内容	<建物>延べ床面積:3968.86㎡ 新館 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 地上2階地下1階 本館 鉄筋コンクリート造一部鉄骨 地上2階地下2階 <主要施設>常設展示室、企画展示室、図書・ビデオコーナー、ミュージアムショップ、談話室など <開館時間>午前9時～午後5時 <休館日> 年中無休 <主な料金> 企画展開催期間 700円 それ以外の期間 500円 ※高校生以下、高知県長寿手帳(65歳以上)、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳を所持する者と介護又は介助者1名、高知市長寿手帳を所持する者は無料 施設利用料 ホール9,900円(午前)16,500円(午後)、企画展示室20,790円(1日)		
職員体制	常勤職員: 7人 契約職員: 12人 合計: 19人		

※ 職員数は平成31年4月1日現在

2 収支の状況

単位:千円

		平成30年度(決算)	令和元年度(決算)	令和2年度(予算)
収入	県支出金	167,820	158,101	160,574
	事業収入	100,440	77,495	86,495
	その他	26,300	5,000	
	収入計	294,560	240,596	247,069
支出	事業費	294,560	240,125	247,069
	(うち人件費)	(80,219)	(83,657)	(78,733)
	その他	0	471	
	支出計	294,560	240,596	247,069
収支差額 (a) - (b)		0	0	0

3 利用状況

	平成30年度(実績)	令和元年度(実績)	前年度比
	208,951 人	154,690 人	-54,261 人
① 年間利用者数 合計 (単位:人)	<利用実績> コロナウイルス感染拡大防止のため休館したことから、年間目標の来館者16万人には達しなかった。(達成率:約96%)		

<p>② 利用者意見等の反映</p>	<p>○ 利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時期:年間 ・ 方法:アンケート用紙への来館者による記入 ・ 回答数:6,806 ・ 調査結果等:企画展の評価(良い80.4% 普通18.8% 良くない0.8%) 来館者の各種の感想、意見等
	<p>○ 利用者意見等を踏まえた対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駐輪場の増設、駐車場の整備を実施 ・ 企画展パンフレット等の多言語標記の充実を図る
	<p>○ その他</p>
<p>③ その他特記事項</p>	

龍馬を求める人々の思いに応えるとともに、龍馬の中核施設としての機能充実を図る

要求水準－収集・保存

収集方針に基づき龍馬に関する資料を収集し、適切に保存する

評価項目

- (1) 他の博物館との連携や資料所有者との信頼関係の構築に努め、資料の充実を図る
- (2) 資料の整理・分類、点検・劣化防止等の処置を適切に行う

状況説明

- ・令和元年度の企画展では、これまでに築いてきた県内外の博物館などとの信頼関係及び博物館相当施設としての収蔵・展示環境の向上を生かし、数多くの貴重な資料を借用することができた。特に特別展においては、龍馬書簡(真物)をはじめとする国指定の重要文化財の展示が実現した。
- ・課題であった展示ケース等の展示環境においては、換気の強化、吸着シートの活用など様々な対策を講じるとともに、定期的な環境測定の実施により適正な空気環境を維持している。
- ・所蔵資料や図書については、データベースを構築し、適切な管理を実施している。
- ・坂本龍馬の書簡の複製については、所蔵先の確認や意向に関する調査段階にあり作成に至らなかった。
- ・新収蔵資料
 - 寄贈: 坂本龍馬佩刀「備前長船勝光宗光」、坂本乙女の帯(岡上菊栄刺繍入)
楠瀬大枝画幅賛入(暇あらむ、西王帰化図)、公私雑記(万延元年～文久2年)
 - 購入: 坂本龍馬や幕末に関する絵図や錦絵など6点
 - 複製: 「坂本家家系図」、「薩摩藩伏見屋敷絵図」

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・坂本龍馬関連資料をはじめ、貴重な資料を収集し、所蔵資料の充実を進めていることが認められる。 ・県内外の博物館との信頼関係により、貴重な資料を借用するなど、協力を得ることができている。 ・展示環境の課題にも必要な対策を講じて、適正な展示環境を維持できるよう努めている。

評価項目

職員の専門性の向上を図るとともに、龍馬とその関連分野に関する調査研究を進め、その成果を、展示や広報媒体などを通じて、広く公開する

状況説明

- ・「志士の肖像」「龍馬をめぐる女たち」「維新十傑」展など龍馬を巡る様々な人物や事績に関する調査・研究を行い、幕末の歴史を多面的に紹介した。また、「長宗我部遺臣と土佐の郷土」展では、幕末に活躍した土佐の郷土という身分について、長宗我部時代を起点とした制度化の変遷を詳しく紹介し、関連分野における専門性の向上を図った。
- ・文化庁が主催する学芸員研修に職員を派遣し、適正な展示環境の維持、資料の「保存」に関する専門性を高めるよう努めた。
- ・学芸員が行った調査・研究については、その成果を企画展・特別展に反映させるとともに、マスコミを対象とした事前説明会（内覧会）の実施、展示期間中の学芸員によるギャラリートークの実施、歴史研究家等による記念講演会の開催など、龍馬や幕末期の研究をめぐる新たな情報などを広く公表した。
- ・研究紀要の発行により専門的な情報や知見を公開するとともに、館の広報誌「飛騰」や新聞への寄稿などにより、わかりやすく紹介した。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・調査・研究分野の拡大に取り組んでいることが認められる。 ・様々な研修を活用し職員の専門性の向上に取り組んでいることが認められる。 ・企画展だけでなく、無料小冊子の発行や、企画展開催中に展示に関係した講演会、研究紀要の発行等により、調査・研究を広く公表したことが認められる。

要求水準－展示・公開

土佐の気風と幕末維新の息吹が感じられる魅力ある展示やサービスの提供により、龍馬の業績を伝える

評価項目

- (1) 来館者に龍馬の志や生涯を深く理解してもらえる魅力的な常設展・企画展を開催し、5年間で80万人以上の観覧者を目指す
- (2) 龍馬に関する専門施設として、一人ひとりの疑問に答えるレファレンスサービスや、学芸員によるギャラリートークなど、来館者の理解が深まる取り組みを充実させる

状況説明

・令和元年度の来館者数は154,690人で、目標としていた年間来館者数の16万人には届かなかった。
・新館の常設展示では、幕末を象徴するペリー来航の展示に始まり、幕末の歴史的な出来事を辿る中で、龍馬をはじめ新しい国づくりに向けて活躍した土佐の志士たちの書簡や、京都土佐藩邸の資料などを展示した。龍馬の書簡に関しては原文・翻刻文・現代語訳・解説の4段階構成の展示を継続している。
・本館では、郷土史とともに龍馬を学ぶことができる展示とし、新館と本館の両方で龍馬や幕末史の理解が深まるよう取り組んだ。
・各企画展においては、様々な人々のニーズに応える幅広いテーマに加え、特別展では国指定の重要文化財をはじめ、龍馬佩刀5振の展示や人気声優による音声ガイドの提供など、訴求力のある展示を実施した。
・龍馬に関する専門的な問い合わせについては、学芸員が一人一人の疑問に丁寧に答える取り組みを行った。また、様々な団体からの講演依頼や取材申し込みについても可能な限り応えた。
・各企画展では、学芸員のギャラリートークを実施し、展示内容の理解が深まるような取り組みを行った。
・団体での来館者からの要望が多い展示解説については、観覧に先立って、企画展示の狙いや展示の「見どころ」などの紹介をホールで行うなど、龍馬や幕末の歴史の理解に繋げる取り組みを行った。
・企画展の展示内容をまとめた図録又は小冊子、会場で配布するリーフレット等、各種印刷物によって来館者の理解が深まるよう努めた。
・特別展では、音声ガイドの解説内容を新たに書き下ろし、また、土佐弁のバージョンとすることで、来館者の展示資料に対する関心と理解がより一層深まる取り組みを行い、好評を博した。
・コロナによる臨時休館中には、企画展「長宗我部遺臣と土佐の郷土」展の資料解説をオンライン動画で行うなど、新たな取り組みを行った。

評価	理由
A	<p>・来館者が年間目標である16万人に届かなかったが、龍馬の現存する佩刀全5振の展示やオンラインゲーム「刀剣乱舞」で龍馬の刀役を演じている人気声優を起用した音声ガイドの提供など、龍馬だけでなく刀好きやゲームファンなど新たな客層へのアプローチを実施したことが認められる。</p> <p>・専門的な資料展示の新館、より身近にわかりやすく説明している本館と、二つの違った趣向の展示をすることにより、龍馬の活動や業績について、龍馬ファンのみならず幅広い来館者の方々に幕末の歴史の魅力を伝える展示としている。</p> <p>・来館者のみならず、龍馬と幕末に関心を持つ全国の方々への疑問や意見に応じている。</p>

要求水準－教育・普及

次代を担う子どもたちをはじめ、県民に龍馬について正しく理解してもらうため、教育普及活動の充実を図る

評価項目

- (1) 学校との連携による出前授業の実施や校外学習活動の受入を積極的に行うなど、子どもたちの幕末維新や土佐の歴史を学ぶ機会を充実させる
- (2) 龍馬に関する講座やシンポジウムの開催など、龍馬への県民の理解が深まる取り組みを充実させる

状況説明

- ・坂本龍馬に関心を持ってもらうため、記念館の元学芸専門員が県中央部の幼稚園・小・中学校を中心に出向き、出前授業を19件で実施、711人の参加があった。
- ・子ども達への理解を広めるために各小学校の児童クラブにも出向き、出前教室を実施。21か所721人の参加があった。
- ・夏には、龍馬が脱藩したときに通ったと言われる榑原町へのバスツアーを実施し、地域とも連携して幕末期の歴史の理解を深めた。16名の小中学生やその保護者が参加した。
- ・「夏休みこども教室」では工作を楽しみながら坂本龍馬に関心や知識を深めてもらう講座を実施。35名の小学生が参加した。
- ・校外学習で来館した小中学生を対象に、当館の概要や展示の見どころ、龍馬の活躍等を説明し、幕末維新や土佐の歴史についての知識を広める機会を提供した(23校、702人)。
- ・「幕末キーパーソン－龍馬をめぐる人々」をテーマとする連続講演会(全5回)を開催し、龍馬や幕末に関する県内外の第一人者を講師として各々の研究の最新の研究成果や知見について講演していただき、新たな発見や知識等を得ることができた。この講演会には延べ355人の参加があった。
- ・「現代龍馬学会」での講演会や研究発表も行い、坂本龍馬や幕末維新への県民の理解、関心が深まる取り組みをすすめた。
- ・各企画展でも企画内容に合わせた記念講演会を実施し、「維新十傑」展や「長宗我部遺臣と土佐の郷土」展では定員を上回る申し込みがあった。特別展の記念講演会においては講演録を講師の了解を得てホームページで公開し、参加ができなかった方々などより多くの方々に興味・関心を持ってもらう取り組みを進めた。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none">・小中学生の夏休み期間中にはワークショップを行うなど、子どもたちの歴史への興味を持つきっかけにつながる取り組みを継続して行っている。・連続講演会での様々な視点からの研究成果の発表や、特別展講演会の講演録のホームページでの公開を通じて、龍馬をより深く理解することに繋がった。

評価項目

「桂浜」や「龍馬像」に隣接する立地条件を生かし、龍馬を核とした事業の実施などにより、観光資源としての魅力の充実を図る。

状況説明

- ・県や観光コンベンション協会との連携を図りながら、県内外の旅行者へのアプローチ、メディアを活用した広報宣伝活動を展開した。
- ・高知市観光協会や桂浜荘、桂浜水族館など桂浜地域の事業者と連携し、「龍馬まつり」を通じた賑わい創出の一端を担った。
- ・特別展では、英語版のリーフレットを作成し、外国人観光客の満足度を高める取り組みを行った。
- ・JR 四国と連携してウォーキングイベント史跡巡り「長宗我部元親と龍馬 土佐の歴史を満喫！」を実施し新たな龍馬や歴史ファンの誘客に繋がった。

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・県内外への旅行者やメディアを活用した広報宣伝活動を実施した。 ・外国人観光客への対応やウォーキングイベントなどの実施により、新たな観光客の誘致に繋がった。

要求水準－広報

龍馬に関する情報を全国に発信し、新たなファン層の拡大とリピーターの定着を図る

評価項目

- (1) 坂本龍馬記念館の活動に関する戦略的な情報発信により、より多くの方に龍馬を知ってもらうとともに、県内外に館の魅力を広める。
- (2) 来館者が龍馬に宛てて手紙を書く「拝啓龍馬殿」など、来館者の思いをくみ上げる取り組みを継続して行うとともに、その内容を活用し効果的な広報を行う

状況説明

- ・ホームページのトップページの見出しを拡充し、新しい情報や重要な情報をタイムリーに提供した。
- ・企画展等の周知について、SNS等による情報発信を行い、幅広い年齢層に龍馬や当館への関心を呼び起こす工夫を行った。
- ・エフエム高知の提供番組等、様々なメディアを活用し、企画展や龍馬・記念館の話題など情報提供を行った。
- ・「維新十傑」展では、オンラインゲーム「刀剣乱舞」に登場する龍馬の刀「吉行」の実物展示や、人気声優による音声ガイドを用意したことをSNS等で発信することにより、ゲームのファンが全国から来館し、新しい客層の開拓につながった。
- ・館内に、アンケートや「拝啓龍馬殿」を記入するためのスペースを設置し、観覧者の記念館への期待や龍馬に対する思いなどを拾いあげ、意見等については、広報誌「飛騰」で紹介するとともに、職員が情報を共有し、展示や接客・案内の改善に活用した。
- ・来館のきっかけとなった広報媒体に関する情報を把握し、広報計画を検討する際の参考としている。

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none">・ホームページやSNS、FM高知など様々なメディアを活用し情報発信を行ったことや新たな客層の開拓をしたことが認められるが、来館者が目標の16万人に達しなかった。・館内アンケート等を活用し、広報のあり方や展示・接客などについて活用していることが認められる。

要求水準－その他

評価項目

県内外の他の博物館等と連携した事業の充実により、県民サービスの向上を図る

状況説明

- ・資料の借用や複製の制作及び講演会の講師依頼等を通じて、県外の龍馬や幕末期関係の文化施設との連携や協力関係を更に強めることができた。
- ・県内の文化施設についても、こうちミュージアムネットワークを通じた日常的な情報交換や交流のほか、高知城歴史博物館への講演会の講師依頼や、夏休みイベントにおいて津野町教育委員会などから協力を得て吉村虎太郎邸を見学するなど、事業の内容の充実に取り組んだ。
- ・「志士の肖像－公文菊僊と龍馬を描いた絵師たち－」展では、絵画の観点から県立美術館学芸員による記念講演会を開催するなど異なる分野とも連携を行い、新たな事業内容の充実や来館者層の開拓に取り組んだ。

評価	理由
A	・県内外の他の博物館等と連携した事業の充実が認められ、来館者へのサービスの向上に繋がっている。

要求水準－施設管理

施設及び設備の適切な保守管理をとおして、故障や事故のない運営を行う

評価項目

(1)適切な管理運営の確保	社会的責任	・法令等の遵守 ・個人情報、情報公開の状況
	建物や設備の管理	・点検、修繕の実績 ・業務委託の状況
	危機管理	・風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策 ・マニュアルの作成 ・職員研修

状況説明

・法令及び就業規定等諸規定の順守に努めた。しかし、会計書類において印漏れや書類作成日の記載漏れ等不備が見受けられた。

・建物や設備については、保守管理を業者に委託し、連絡を密に行い来館者の安全を一番に考え、適正な管理に努めた。

・消防計画に沿った館内組織体制を定め、新たな施設での危機管理マニュアルを作成し、職員に周知し、職員の目に付く場所に掲示している。

・地震等への備えについては、高知市とも連携して避難所としての必要な物資の備蓄を備えるとともに、桂浜荘と連携した浦戸地区避難所運営マニュアルを作成した。

評価	理由
B	概ね要求水準どおり、適切な管理運営を行っている。

評価項目

(2)利用者サービスの維持向上	・利用者の意見の反映 自己点検、評価の状況 ・事故、クレームへの対応 ・職員の専門性の向上 ・研修の実施状況 ・その他サービス向上の取り組み
-----------------	---------------------------------------------------------------------------

状況説明

・館内に、アンケートや「拝啓龍馬殿」を記載できるスペースを設置し、観覧者の記念館への期待や龍馬に対する思いなどを拾いあげた。

・メールや電話による来館者のご意見や苦情に対しては、真摯に対応し、迅速な回答を行った。

・文化庁及び国立文化財機構が実施する文化財保存や修理の専門知識向上のための各研修に3名の学芸員が参加したほか、財団本部が実施する研修(学芸員専門研修・自主企画研修)や高知県や外部団体が実施する研修(著作権研修、防災・防犯対策研修、BCP作成研修)に参加し、職員の資質の向上に努めた。

・利用者の事故に対しては、事故等対応手順を策定し、対応についての確認を行った。

評価	理由
B	概ね要求水準どおり、利用者サービス向上に向けた取り組みを行っている。

評価項目		
(3)利用実績	利用実績の状況	・利用状況の分析

状況説明
令和元年度末に、新型コロナウイルスの影響もあり、1年間の目標としている来館者数 16 万人には届かなかったものの、154,690 人の来館者となった。

評価	理由
B	・コロナウイルス感染拡大防止のため休館したことから、年間目標の来館者 16 万人に達しなかったものの、達成率は 96.7%と概ね要求水準どおりとなっている。

評価項目			
(4)収支の状況	経営努力	・収入増加の取り組み	・経費削減の取り組み

状況説明
<ul style="list-style-type: none"> ・来館者数の減少に伴い、観覧料収入等の事業収入も減少した。 ・経常経費については、光熱水費の節減や日々の消耗品等の節減に努めるなど、経費削減の削減ができ、決算において収支差額は黒字となった。

評価	理由
A	・来館者減少により減収となったが、経費削減に努め、収支差額が黒字となった。

総合評価

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者 16 万人の目標は達成できなかったものの、前年度からの課題となっていた展示ケース等の環境管理について対策を講じた結果、国指定の重要文化財を展示することができた。 ・特別展での特別仕様の音声ガイド作成や、記念講演会の講演録の HP での公開、SNS 等を活用した広報などを実施し、新しい客層の開拓につなげた。 ・資料収集については、これまでの関係者との信頼関係の構築により、龍馬ゆかりの貴重な刀等の寄贈がなされるなど成果があったが、龍馬書簡の複製制作では、遅れがみられる。 ・各企画展での記念講演会や連続講演会の開催においては、講演会によっては定員を上回る申し込みがあるなど、県内外の方々へのイベントの周知と、幕末史や龍馬への関心を広めることができた。 ・児童生徒への教育普及事業活動を通じて次世代の龍馬ファンの育成を図ることができた。

評価基準

- 「A」 要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた。
- 「B」 概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた。
- 「C」 要求水準に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要。
- 「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえ、大いに改善を要する。